

キリストと共に生きる

(マルコ 4:26-34)

キリストはこのテーマを何度も繰り返しています。このテーマは、彼の最初の説教のテーマでした。からし種が最も大きな植物に成長し、それによって他の生き物の必要に応えるというイメージを与えています。神の国はこのようなものです。神は王であり、その王国はからし木のように、私たちにとって安全な避難所です。私たちは、その木陰に住み、その枝で休むことができ、災いから守られています。私たちがすべきことは、王の忠実な臣民となり、王の命令に従い、王の王国のニュースをすべての人々に広めるために出かけることです。

霊的生活が思うように進まなくても、不安になってはいけません。神様は私たちを少しずつ前進させてくださいます。私たちのキリストとの関係の命は、私たちだけにかかっているのではなく、キリストにかかっているのです。私たちは善良な農夫のようなもので、種が育つための条件を整えるために自分の役割を果たしますが、成長を実現するのは創造主なのです。私たちは、自分の魂に神が働いていることに気づくのは、かなりの時間が経ってからということがよくあります。しかし、神は常にそこにおいて、私たちの雑草を一本ずつ抜き取り、私たちの美德を表面に押し出してくれているのです。

二千年前、キリストの教会は小さなからし種のように始まりました。それが成長し、成熟して、多くの枝を持つ巨大な植物になりました。私もその枝の一つです。キリストは私の枝に命を吹き込み、私に特定の任務を与えてくださいます。教会の偉大な使命に参加するために私を呼んでくださったのです。私は、カトリック教徒であることがどれほど素晴らしいことか、教会がどれほど良いことをしているか、私が経験したのと同じ良さを他の人に経験させるためのリンクとなるように召されていることを理解し、楽しんでいるでしょうか？

ウィル神父